

# 道北地域における福祉学生と若手福祉専門職を対象とした研修会実践報告

著者	長谷川 武史, 江連 崇, 高田 裕斗, 尾之内 謙一, 藤木 聖子
雑誌名	地域と住民 : コミュニティケア教育研究センター年報
号	3
ページ	89-93
発行年	2019-05-31
出版者	名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター
ISSN	0288-4917
書誌レコードID	AN0001106X
論文ID (NAID)	40021940932
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1088/00001804/">http://id.nii.ac.jp/1088/00001804/</a>



## 実践報告

### 道北地域における福祉学生と若手福祉専門職を対象とした研修会実践報告

長谷川武史<sup>1)</sup>\* 江連 崇<sup>1)</sup> 高田裕斗<sup>2)</sup> 尾之内謙一<sup>3)</sup> 藤木聖子<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科 <sup>2)</sup> 社会福祉法人当麻かたるべの森

<sup>3)</sup> NPO 法人南宗谷ひだまりの会

#### はじめに

本実践報告は、将来の就職進路として福祉領域を志向する学生のキャリア形成支援と、道北圏域の若手福祉専門職の研修機会の提供、および相互交流を目的とした研修会の実施報告である。現在、国が進める共生社会作りにおいては、小地域単位での地域包括ケアや対象や領域を限定しない多様なニーズに対応できる対人援助専門職が求められている。専門職の中でも中心的役割を期待されるソーシャルワーカーには、その環境作りとして関係者との連携・調整や社会資源開発を通じた地域作りに参画していくための高い専門性が求められている。そこで本実践では、本学学生および道北地域の福祉専門職も対象とした研修事業を企画し、①共生社会における多様な福祉実践のあり方の理解、②研修内容と福祉専門職との交流を通じた学生のキャリア形成の促進、③道北地域における若手福祉専門職の研修機会を創出し専門性の向上に寄与する、この3つを目的として研修会を実施した。

#### 1. 事業概要

本実践事業は、道北圏域若手福祉従事者ネットワークの研修会(以下、若手ネットワーク)が主催する「第12回道北圏域若手福祉従事者ネットワーク研修会」との共催として、2018(H30)年10月6日に実施した。若手ネットワークは、道北地域における様々な福祉領域で勤務する専門職者と福祉職を志向する学生に対して研修・教育・交流の場を提供し、相互交流を図っていく場として2012(H24)年から活動を行っており、本実践事業と共通する目的をもつ団体である。今回の研修会テーマは、「Look for a New Angle」として、福祉専門職ではなく日々福祉領域と関わりのある他領域の実践者を招き研修プログラムを企画した。研修会の参加者は表1の通りである。

今回の研修会は、総勢87名での実施となった。学生の参加のうち50名が「ソーシャルワーク演習Ⅱ」の講義の一環として参加したほか、2年生および3年生の一部が参加していた。

研修会のプログラムは2部構成として、第1部では、「司法分野から見た社会福祉」をテーマとして、北千住パブリック法律事務所の押田朋大氏を招き基調講演を行った。押田氏はこれまで刑事・民事事件の担当だけではなく、成年後見人活動や自治体における自殺予防支援、福祉関係者への法律助言等を行っており、前職の名寄ひまわり基金法律事務所においては、名寄市の地域包括ケアシステムへの参加や名寄市社会福祉協議会の第4次名寄市地域福祉実践計画の策定委員を務めるなど、福祉領域との関わりも深い。本講演ではこれまでの業務経験を通して、司法と福祉のそれぞれの立場の違い、正解がない中や限界がある中で、専門性をどのように発揮して人の生活に関わっていくのか、そこでの協働の大切さなど、貴重な知見を提示いただいた。第2部では、シンポジウム「いろいろな角度から見た福祉」というテーマのもと、4名のシンポジストを招いて企画したが、当日1名が所用により参加出来ず3名での実施となった。なお、登壇者は以下の

表1 研修会参加者(所属)

	度数	パーセント
学生	53	60.9%
教員	4	4.6%
一般	22	25.3%
運営スタッフ	8	9.2%
総数	87	100.0%

\*責任著者 E-mail:t-hasegawa@nayoro.ac.jp

通りである。

(シンポジスト)

- ・株式会社豊富牛乳公社 代表取締役社長 平島亨 氏
- ・名寄市立名寄南小学校 教諭 五嶋歩美 氏
- ・名寄市教育委員会教育部 スポーツ・合宿推進課 高橋弘樹 氏

(司会およびコーディネーター)

- ・NPO 法人南宗谷ひだまりの会 尾之内謙一
- ・名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科 長谷川武史

株式会社豊富牛乳公社の平島氏からは、企業として被雇用者の職場定着環境の向上については、一般雇用および障害者雇用共に重要であることを踏まえ、障害者雇用における職場内の安全管理の工夫や働きやすさを向上していくための取り組みを報告いただいた。名寄市立名寄南小学校の五嶋氏からは、不登校児の支援には学校教育と福祉、学校と地域それぞれの繋がりによる支援が重要であること、直接的な不登校児への支援だけではなく、学校の福祉教育の質向上のためにも、学校と地域社会や福祉領域との協働が重要であることを報告いただいた。名寄市教育委員会教育部の高橋氏からは、共生社会構築に向けたスポーツと福祉の関係について報告いただき、パラスポーツの普及啓発による地域住民への福祉教育の意義について提示いただいた。



写真1 第1部 基調講演の様子



写真2 第2部 シンポジウムの様子

## 2. アンケート結果

### 1) アンケート概要

研修会終了後にアンケートを実施した。前述した研修会参加者(表1)および「表2 アンケート回答者属性(所属)」を踏まえるとアンケートの回収率は約65.5%となった。表2を見ると学生の回答割合が高く、専門職

者の回答割合が低い結果となった。「表3 アンケート回答者(年代)」では、学生の回答数が多いため全体的に年齢層が低い結果となっているが、研修会の狙いである若手福祉専門職者からの回答が一部あった。

「表4 研修会を知ったきっかけ」では、回答者の多くが「職場(学校)からの案内」と回答しており、SNSやその他の周知方法で参加に繋がったとされる回答がなく、周知方法に関する課題が明らかになった。「表5 研修会に参加した感想」からは概ね研修会への肯定的な評価を得ることができた。

表2 アンケート回答者属性(所属)

	度数	有効パーセント	
学生	53	94.6%	
一般	福祉(高齢)	0	0.0%
	福祉(障がい)	2	3.6%
	福祉(児童)	0	0.0%
	教員	0	0.0%
	行政	1	1.8%
その他	0	0.0%	
無回答	1		
計	56	100.0%	

表4 研修会を知ったきっかけ

	度数	有効パーセント
職場(学校)からの案内	53	93.0%
知人からの紹介	4	7.0%
SNS(Facebookなど)	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	
計	57	100.0%

表3 アンケート回答者属性(年代)

	度数	有効パーセント
10代	49	86.0%
20代	7	12.3%
30代	1	1.8%
40代	0	0.0%
50代	0	0.0%
60代	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	57	100.0%

表5 研修会に参加した感想(複数回答)

	度数
参考、学びになった	47
福祉の仕事は大変そうだと感じた	23
仕事(学業)に意欲的に取り組む気になれた	16
福祉の仕事を頑張りたいと思えた	13
福祉に対し前向きなイメージを持てた	8
福祉の仕事に希望が見出せた	6
研修内容が難しかった	5
現場職員の頑張りが励みになった	4
もの足りない	2
学び得たものは少なかった	1

## 2) 各プログラムの評価

### (1) 第1部基調講演について

基調講演「司法分野から見た社会福祉」については表6の通り肯定的な評価が多かった。自由記述のコメントについては、全部で54の回答を得た。

(自由記述抜粋)

- ・司法から見た福祉はこの学校にいるだけでは聞くことができないのでとてもよかった。
- ・様々な事例を話していただき、福祉にたずさわることの難しさだったり、いろいろな人がいる中での働きの大切さを感じることができたから。
- ・正解がないことに難しさを感じたし、それと同時に、もっと福祉を学びたいと思ったから。
- ・具体的な事例があげられていたため理解考察しやすい内容であり非常に参考となった。反面、深刻なケースも多く、福祉の厳しさも学ぶことができた。
- ・もっと詳しく学習をしていたらより学びの多い講演だったと思えたと思う。自分の力がもう少しあればと

表6 第1部 基調講演の感想

	度数	有効パーセント
良かった	52	91.2%
普通	4	7.0%
不満	1	1.8%
無回答	0	
計	57	100.0%

感じたため。

- ・弁護士や福祉職とともに「解」がないものに全力で考える部分にやりがいを感じ、頑張っていきたいと思えた。

学生からのコメントとして、普段の大学の講義では知ることが出来ない司法と福祉の関係について多く挙げられていた。

### (2) 第2部シンポジウムについて

シンポジウム「いろいろな角度から見た福祉」については表7の通り肯定的な評価が多かった。自由記述については、54の回答を得た。

(自由記述抜粋)

- ・企業の雇用や教育現場、スポーツなどさまざまな面からも福祉は関わりがあるということを知ることができたから。
- ・福祉が様々な場面で様々な職業と連携していること、そのあり方を知ることができたから。
- ・教育の分野と福祉がどうかかわっているのかまったく知らなかったため、非常に勉強になりました。
- ・様々な職場、福祉との連携から見てみる良い点、悪い点を見つけることができた。
- ・他職では困難な所を福祉が支援することで連携が活きていると感じた。障害という壁を意識的に取り払う必要性、課題を考えることができた。
- ・他の職からの福祉の見かたを聞くことがほとんど初めての経験だったので、新鮮な考えに触れることができたと思います。ご貴重なお話ありがとうございました。
- ・もう少し、踏み込んだ所を聞きたい気もしました。現場に入ったからこそわかること、学生だったら気が付かないような点をもっと少し知りたかったです。

各シンポジストの実践と福祉の繋がりに関するコメントが多かった。一方で、それぞれの実践領域に関する限界や課題など、内容に深化を求めるコメントも見られた。

### (3) 研修会全体へのコメント

研修会全体に対する感想や今後の要望として、18の回答を得た。

(研修会に関する感想抜粋)

- ・専門性は違っても、どの方も仕事に対する姿勢で、学ぶものが沢山ありました。本日はありがとうございました。
- ・今後どの職業についたとしても今回学んだことは必要になる物だと思うので自分でも考えを深めていきたい。
- ・今回の研修で社会福祉の幅広さ、社会において重要さを知ることができ、今後、福祉の勉強をするうえでとても前向きな気持ちになれた。
- ・改めて福祉はいろんな人々とつながっているんだと知ることができました。貴重なお話、ありがとうございました。

本研修の目的の1つである多様な福祉実践のあり方に関するコメントも寄せられており、参加者にも一定程度研修会のねらいが伝わっていたと考えられる。

(今後の要望抜粋)

- ・児童虐待などの権利侵害

表7 第2部 シンポジウムの感想

	度数	有効パーセント
良かった	47	82.5%
普通	10	17.5%
不満	0	0.0%
無回答	0	
計	57	100.0%

- ・よりもっと教育の場の話を書きたいなと思います。
- ・障害児への支援をテーマに取り上げて欲しいです。(福祉関係者との地域、教育関係者との連携の仕方、有り方)
- ・難しいとは思いますが、障害を抱えている人のものの見方・考え方などを本人からまたはその親など身内から聞く機会がほしいです。

このように多様な意見が挙げられており、次年度以降の研修に有用な意見を得ることができた。

## おわりに

本稿では、共生社会における多様な福祉実践、学生のキャリア形成の促進、若手福祉専門職の研修機会の創出等をねらいとした研修会の内容と参加者アンケートの結果について報告した。アンケート結果からは研修参加に対する肯定的評価があったと考えられる。しかし、本研修事業は今年度で3年目の取り組みであったが、いずれも一般参加者数が少なく参加者確保に関する課題が存在していた(長谷川ほか 2017,2018)。今年度の研修については、チラシの配付やホームページ、ソーシャルメディアを使用して周知を図ったが、アンケート結果ではそれらの効果を確認できなかった。次年度以降の研修会企画の際は、福祉専門職者への周知方法と参加者増の検討が必要となる。一方、学生に対しては現在のカリキュラム構成では講義内で伝えることが難しい内容を本研修で取り上げてきたことで、一定の研修効果を上げることができたと考えられる。これらの成果を次年度以降の研修会につなげていきたい。

## 付記

本稿は、平成30年度名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター課題研究による「社会福祉領域における在学生のキャリア形成支援を目的とした研修会事業の開発」における成果の一部である。

## 参考文献

- ・長谷川武史、江連 崇、藤木聖子、尾之内謙一(2017)「在学生のキャリア形成支援を中心とした社会福祉専門職者との交流事業報告」『地域と住民：コミュニティケア教育研究センター年報』2(35) 103-107 頁
- ・長谷川武史、江連 崇、藤木聖子、尾之内謙一(2018)「社会福祉領域における在学生のキャリア形成支援を目的とした研修会実践報告」『地域と住民：コミュニティケア教育研究センター年報』2(36) 91-96 頁

**第12回 道北圏域若手福祉従事者ネットワーク研修会**  
**「Look for a new angle」**  
 ～見方を変えてみよう～  
 “福祉”ってどう思われている？わたしたちに求められていることは？  
 見方を変えて書えてみませんか？

と き：平成30年10月6日(土) 13:00～  
 (開場 12:30) **参加無料!**  
 ところ：名寄市立大学(名寄市西3条北8丁目)  
 図書館棟1階 大講義室

～第1部～ 基調講演  
**『司法分野から見た社会福祉』**  
 講師：押田 朋大 氏(北千佳パブリック法律事務所)

<p style="text-align: center;">～第2部～ シンポジウム  <b>『いろいろな角度から見た福祉』</b></p> <p>(シンポジスト)                  株式会社 豊富牛乳公社代表取締役社長 平島 亨 氏                  名寄市立名寄南小学校教諭 五嶋 歩美 氏                  名寄市教育委員会 教育部                  スポーツ・台席推進課 スポーツ・台席推進係 主事 高橋 弘樹 氏                  看護師勤務 加藤 愛梨 氏</p>	<p style="text-align: center;">プログラム</p> <p>13:00 開会                  13:10 基調講演                  14:40 15分休憩                  14:55 シンポジウム                  16:25 閉会</p>
---	---

(お申込み・お問い合わせ)  
 ・申込用紙(裏面)をFAXもしくは、必要事項をE-mailにて事務局へ申し込み願います。

申込み締切 10月1日(月)まで  
 メールまたは裏面の参加申込書から  
 FAXでお申込みください。

(お問い合わせ)  
 NPO法人 道東若ひだまりの会  
 〒093-5825 松尾郡松尾町新築314番地1  
 E-mail: esashi@center@tbl.makmt.com  
 TEL・FAX: 0163-62-2773 (9時 尾之内)

(主催) 道北圏域若手福祉従事者ネットワーク (共催) 名寄市立大学

資料1 研修会チラシ

